

「適切なケアマネジメント手法」大腿骨頸部骨折Ⅰ期（病状が安定し、自宅での生活を送ることが出来るようにする時期）・Ⅱ期（病状が安定して、個性を踏まえた生活の充足に向けた設計と、セルフマネジメントへの理解の促進を図る時期）をみていきましょう。

想定される支援内容				省察（振り返り）		連携	意向の再確認	地域課題
大項目	中項目	小項目	想定される支援内容	① 聞きもれ、確認漏れしていた、アセスメント／モニタリング（情報や視点）	② さらに深めるべき視点（具体的に）	連携する職種や社会資源等（誰にどのように）	利用者や家族等への説明と同意	利用者を通して、お住いの地域のお困りごとは？
Ⅱ これまでの生活の尊重と継続の支援	Ⅱ-3 家事・コミュニティでの役割の維持あるいは獲得の支援	Ⅱ-3-1 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援	35 喜びや楽しみ、強みを引き出し高める支援	1 日、1 週間の過ごし方は確認したが、月単位、年単位で過ごし方の情報が不足していた	モニタリングの際に月単位、年単位の過ごし方等確認する。	本人の興味関心を確認。地域資源の確認を行いマッチングしていく。地域でのイベント等民生委員に確認する。		
I 期								
1 再骨折の予防								
2 骨折前の生活機能の回復								
Ⅱ 期								
1 再骨折の予防								
2 セルフマネジメントへの移行								